

epoch

エポック No118

～千代田区生涯学習推進委員会議だより～

令和3(2021)年8月 発行

第13期第4回 概要報告

6月1日、第4回千代田区生涯学習推進委員会議が開催されました。今年度最初の会議では、新委員・番町小学校渡辺裕之校長に委嘱状が交付されました。

今期のテーマに向け、区外および千代田区の状況について事務局より説明のあと、各委員による意見交換が行われました。

つぎに「ちよだ生涯学習カレッジ」事務局、ちよカレ「検討会」による報告が行われました。

以下、概要をお伝えいたします。

I 今期のテーマについて



～今期のテーマが決定しました！～

コロナ禍の生涯学習推進におけるICTの活用と支援の可能性

＜経過＞第13期生涯学習推進委員会議は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から約半年遅れてスタートしました。第1回から第3回会議は、コロナ禍の生涯学習の現状とともに、各委員の体験・問題点を出し合い、生活のどのような場面でもICT活用が急速に求められる状況において、生涯学習の観点からはどうあるとよいのかの議論が進められました。

前回の会議では、

- ◆ICT機器の使い方を学ぶ場面では、特に高齢者などICT機器に触れてこなかった方への支援は、近隣を拠点とするなど人間関係の構築を含め、活用の前段階からの1対1のサポート体制が必要となる。
- ◆ICT機器を使用して学ぶ場面でも、人間関係の構築を切り離して考えることはできない。対面と遠隔（ICT）のよいところを組み合わせるって行く。
- ◆メンターなどのサポートシステムの構築に大学生や若い人たち、ちよカレ卒業生などを期待できないだろうか。

このような意見がまとまってきたことから、今回は事務局から渋谷区デジタル活用支援制度、総務省スマホ講習会の記事、千代田区で行われている高齢者・障害者・初心者等向けICT活用支援状況について事例説明の後、各委員による意見交換が行われ、今期テーマが決定されました。

【意見交換の主な内容】

千代田区、他区の現状から

- 渋谷区のデジタル活用支援員は先進的であるが、生涯学習施設でパソコン教室が大人気、コンピュータが1人1台使える教室が高齢者向けにある。このようなバックボーンがあつてのスムーズな早い取組みができたと思う。千代田区にはこのような環境が無い。
- 小学校では、GIGA 構想において1人1台タブレット貸与されている。タブレットは学校で使うだけでなく、家庭に持ち帰ってからの学びを含めて学校も積極的に関与していこうとの考え方の中で、例えば自由度をもって自分で調べ学習をするなどの活用を進めている。
- コロナ禍ではタブレット等電子機器を使うコミュニケーションや学習を取り入れざるを得ない。若い人は電話などの直接的なコミュニケーションを避けることがある。人間関係の問題もさらに進行するのではないか。
- 若い人はスマホリテラシーはあるが、全員にコンピュータリテラシーがあるとは限らない。高齢者だけでなく、若者も若者用のメンターが必要なのかという印象を持っている。
- 事例からわかることの1つは、いかに電子機器を使えるようにするかという学習。もう1つは、電子機器を使って学習の場に接近するという2方向の側面がある。

めざすもの

- 千代田区は人口が少なく、やろうと思えば何でもできるメリットがある。いろいろな千代田区らしさは何度も語られているが、これから新しく作り上げていこうというとき、「デジタルディバイド」という日本の問題を積極的に解決していこうとしている区なのだと標榜できる、そう

いう区の作り方というのものがあるのではないか。旗印が欲しいと、このような時代で感じている。

- 千代田区もさまざまなICT支援の場面が設けられているが、千代田区の範囲で考えるならば、事例の集約の中に、支援の層の厚さを同時に入れていくことがよいのではないか。多様性、多層性がICT支援の形態のなかにも求められてくるのではないか。

どのように行くとよいのか

- 町会単位で高齢者が子どもたちに教えてもらうことができれば、子どもたちの勉強の一環になるのではないだろうか。
- 高齢者と子どもが一緒に行うことの相乗効果がある。年齢層を限定しないで広げていくというのもひとつの在り方と思う。
- 千代田区に多い学生や、退職された方にICT支援ボランティアとして教えてもらうことはできないか。
- 区内のスマホ講座等が単発で、初心者がこういうものなのだ理解したところで終わってしまうのはもったいない。デジタル活用支援員のようなサポート体制と講座がうまくリンクしていくことが大切ではないか。これをどうやるかが一番大きな課題となるのではないか。

広報の重要性

- 区内のICT支援がせっかくさまざまなところで行われている。区のホームページ等で集約し周知してはどうか。
- 高齢者や初心者等へのICT支援に関する情報に広がりがなく、生活に密着してこない。千代田区報だけでなく、町会単位でさらに広げていただきたい。



Ⅱ ちよだ生涯学習カレッジについて

◆◇事務局より進捗状況について

①第6期カリキュラム策定に向けた卒業生アンケート報告が行われました。

項目	回答抜粋
応募動機	<ul style="list-style-type: none"> 千代田区について知るきっかけ、学び直し 退職後のコミュニティ形成 住んでいる地域で繋がりがほしかったから コーディネーターになりたかった 生きがいづくり 歴史文化の深い学び
よかった授業	<ul style="list-style-type: none"> 施設見学などのフィールドワーク 生涯学習、ボランティアに関する授業 千代田区で活躍されている方の講義・受講型の授業を望んでいたが、参加型の授業が多かった 事例研究 自身でのプレゼンテーション コースの意義を解説してくれる講義
今後期待する授業	<ul style="list-style-type: none"> 期間が1年間だと通いやすい 卒業後の活躍のサポート カレッジ生以外も参加できる公開講座 イベントの運営 区の魅力を発信する授業 都や国の施設にも見学に行きたい ボランティアの意義やコミュニティ活性化について 実践的なコーディネータープログラム 地域活動への参加 選択制 千代田区の歴史文化・建築学、生態学、区役所関係者など

※青字：5期生のカリキュラムに含まれるもの

②2021年モニターコース開催。

第6期カリキュラム策定のためモニターコースを実施し検証を行う。

期間：2021年10～12月（8回程度）

対象：千代田区在住・在勤・在学

定員：15名程度 参加費：無料

③第4・5期生へアンケート実施。

④第4期卒業式日程について。

日時：7月27日（火）19時～20時

会場：九段生涯学習館6Fレクリエーションホール

※感染状況によりオンライン開催

◆◇ちよカレ「検討会」より報告と今後の要望

※ちよカレ「検討会」＝新たな区民カレッジの在り方を議論するちよカレ卒業生有志団体

①ちよカレ「検討会」を2回実施し、関係者へ個別に意見聴取、共有し議論した。

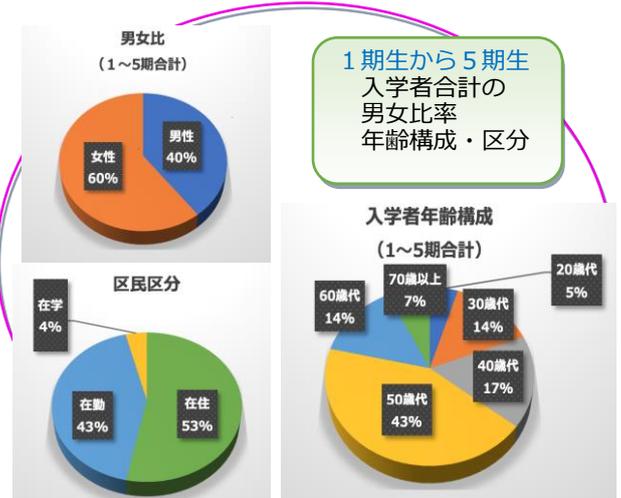
②区は、時期指定管理者公募要件に卒業生活動団体による講座企画提案を受け入れ、協議に参加することを明記。

③検討会の目的は達したので、次期指定管理者の選定後、「企画運営委員会」の設置を要望。

【意見交換の主な内容】

○講座の企画に卒業生団体に関わる背景として受講生の減少がある。元受講生の学習体験を基にニーズを反映できるような講座もあるのではとの趣旨であり、企画運営委員会の要望は次期指定管理者決定後に協議・意向を踏まえたものとなる。

○これまでと違う層、動機の人達等、卒業生以外にアンケートを行ってはどうか。千代田区は、大学を出て30代前後の社会人が多い。このままでよいのかと非常に悩むとき。このような人たち、これまでと違う人たちに呼びかける仕組みを作ってもよいのではないか。



○プログラムの中で展開されるものを動画配信などインターネットの有効活用。

○ちよカレのタイトルを若い人向けや、かわいらしいネーミングしてはどうか。

「私の健康の秘訣」

松島 直樹

私は体を動かす事が好きである。ラジオ体操の指導員として、近くの佐久間公園で毎朝ラジオ体操をしています。子どもから高齢者まで様々な年代の人が数人集まって来ます。

夏期ラジオ体操会を開催しています。 昨年は、新型コロナウイルスの影響で、感染症防止対策に苦勞して行ってきました。今年も同様に成らざるを得ないと思っています。

誰にでも出来るラジオ体操なので続けていきたいです。

千代田区スポーツ推進委員に所属していて、区と区民のスポーツのサポートをしています。区民体育大会、ボウリング大会、フィールドアスレチック、ドッチビー大会等の審判やお手伝いをしています。

得意な競技も苦手な競技もありますが、人とのコミュニケーションを学び、いろいろ経験して自分の成長に繋がったと思います。嬉しくあり、楽しみでもあります。

昨年と今年は大きなイベントである区民体育大会が、新型コロナウイルスの影響で2年連続で中止になってしまい悲しい限りです。スポーツを通して体を動かすことの楽しさや、マナー、人として心の優しさ等、健常者だけでなく障害を持つ方にも積極的に取り組みたいです。

今後も生涯学習推進委員として地域の方々の健康増進に努めたいです。

「知識欲の塊だった先輩方」

長嶋 幸

まだ次男が赤ん坊の頃、千代田区主催の母親のための講習会に参加したことがある。その内容自体はすっかり忘れてしまった(すみません)が、その後の人生に非常に影響を受けた出会いがあった。

講習会終了後のアンケートで、母親の勉強会に興味があるか、との問いがあり、私としては新米の母親にとってためになる話なら喜んで聞きに来る、というつもりで○をした。ところが会後のミーティングで、とてつもない存在感を放っていた年配の女性が唐突に「さあ、ではこのメンバー(講習会に出ていた母親たち)で母親の勉強グループを作りましょう。まず名前を決めないでね！」とのたまったのである。??となっていたものの勢いにおされ、我々はグループの名前をきめ、次回日程を決め、テーマを決め、いきなり母親勉強会自主サークルを立ち上げることになった。

その年配の女性は大野さんとおっしゃる方で、長年活動を続ける‘千代田区学習グループ連絡会’という女性の勉強会サークルがいくつも集まっている団体の代表格の方だったのだ。彼女たちは各々のサークルで様々な勉強を続け、毎年その代表が集まって集会を開催し、会報を発行し、新年会を開き(そこには区長も参加されていた)70歳を過ぎても80歳を過ぎてもなお精力的に講習会をひらくなど活動を続けていらした。生涯学習とは自ら貪欲に知識を求め続け会得していくものなのだと教わった。

そのとき作った我々の自主サークルはメンバーが変わりながらも存続し、母親として知るべきと思った知識を共有しながら、仲間同士で成長していくことができた。講習会や講演会など本当にいろいろな活動をした。20数年がたち、すでに千代田区学習グループ連絡会は活動を終了している。大野さんも鬼籍に入られて十数年たつ。当時は新米ママだった我々の会も、子ども達が成人し母親勉強会とは名ばかりのお出かけサークルとなってしまったが、美術館をめぐるたり演劇を観たりと、いまでもよい仲間として活動している。今は制限せざるを得ない状況だが、近いうちに集まる日がくることを信じている。

【編集／発行】

千代田区 地域振興部 生涯学習・スポーツ課 〒102-8688 千代田区九段南1-2-1
TEL 03(5211)3632 FAX 03(3264)1466
E-mail shogaigakushuu@city.chiyoda.lg.jp